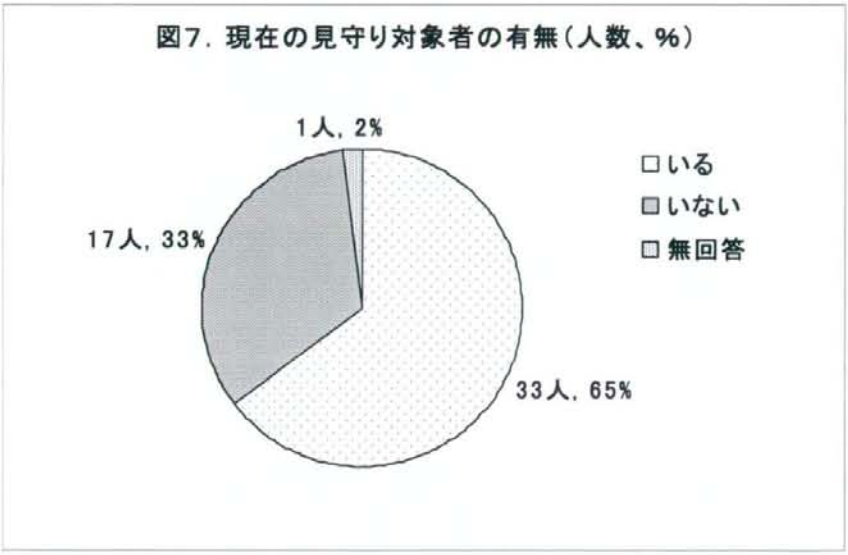
4）見守り活動

（1）見守り活動の対象者の有無

現在見守り対象者の有無をみると（図７）、「いる」が 33 人（65%）で、「いない」が 17 人（33%）であった。



現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者を性別にみると（表７）、男性は 48.5%、女性は 51.5%と、女性の方が男性に比べ見守り対象のいる割合が多かった。

表7．性別にみた見守り活動の対象者の有無

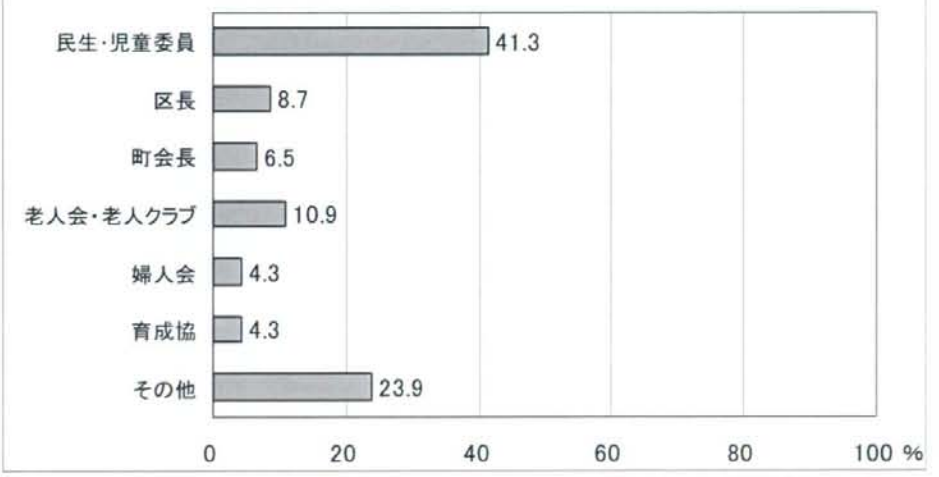
項目	男性			女性			合計	
	人数	性別%	項目別%	人数	性別%	項目別%	人数	項目別%
いる	16	55.2	48.5	17	77.3	51.5	33	64.7
いない	12	41.4	70.6	5	22.7	29.4	17	33.3
無回答	1	3.4	100				1	2.0
合計	29	100	56.9	22	100	43.1	51	100

現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた者で、役職別みると（表８、図８）、民生・児童福祉委員が 19 人（41.3%）、老人会・老人クラブが 5 人（10.9%）と見守り対象者のいる割合が多かった。

表8. 役職別に見た見守り活動対象者の割合

役職名	人数	%
民生･児童委員	19	41.3
区長	4	8.7
町会長	3	6.5
老人会･老人クラブ	5	10.9
婦人会	2	4.3
育成協	2	4.3
その他	11	23.9
合計	46	100

図8. 役職別にみた見守り活動対象者の割合



所属校区別にみると表９のとおりであった。

表9. 所属校区別にみた現在の見守り活動対象者の割合

所属校区名	人数	所属校区内の%	全体の %
A	17	81.0	51.5
B	5	71.4	15.2
C	8	66.7	24.2
D	3	30.0	9.1
合計	33	64.7	100

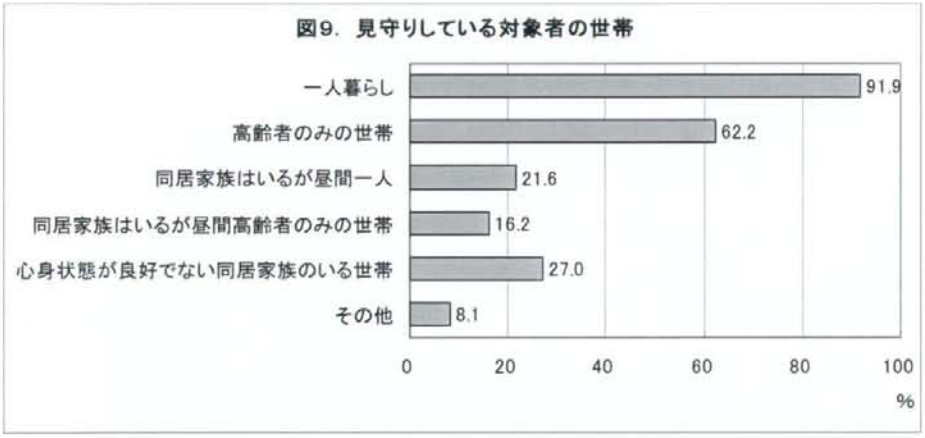
2）見守り活動の対象者

①世帯

見守り活動の対象者を世帯別にみると（表 10、図 9）、「一人暮らし」が 34 人（91.9%）、「高齢者のみの世帯」が 23 人（62.2%）と、独居・高齢者のみ世帯が主な見守り対象である。

表10. 見守りしている対象者の世帯（複数回答）

世帯項目	人数	%
一人暮らし	34	91.9
高齢者のみの世帯	23	62.2
同居家族はいるが昼間一人	8	21.6
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	6	16.2
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	10	27.0
その他	3	8.1

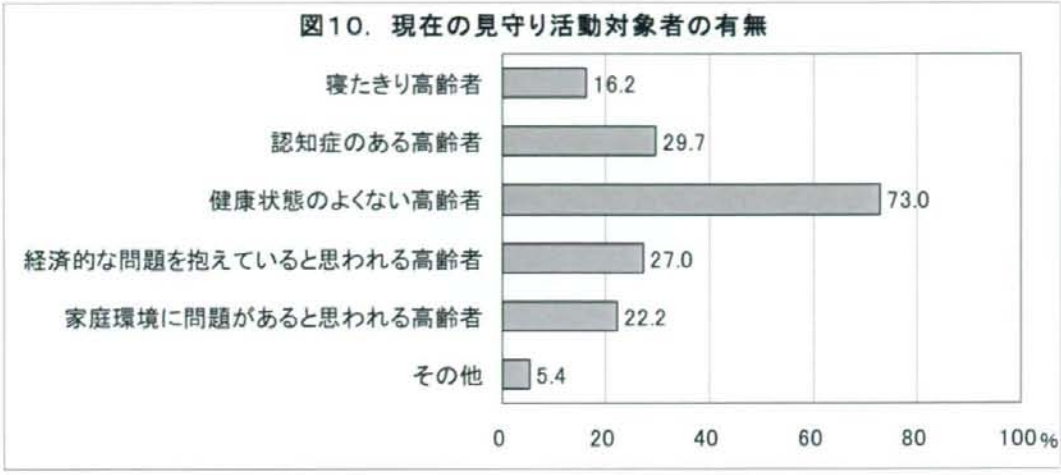


②状態

見守り活動の対象者を状態別にみると（表 11、図 10）、健康状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題も捉えられている。

表11.現在の見守り活動対象者の有無（複数回答）

状態項目	人数	%
寝たきり高齢者	6	16.2
認知症のある高齢者	11	29.7
健康状態のよくない高齢者	27	73.0
経済的な問題を抱えていると思われる高齢者	10	27.0
家庭環境に問題があると思われる高齢者	8	22.2
その他	2	5.4

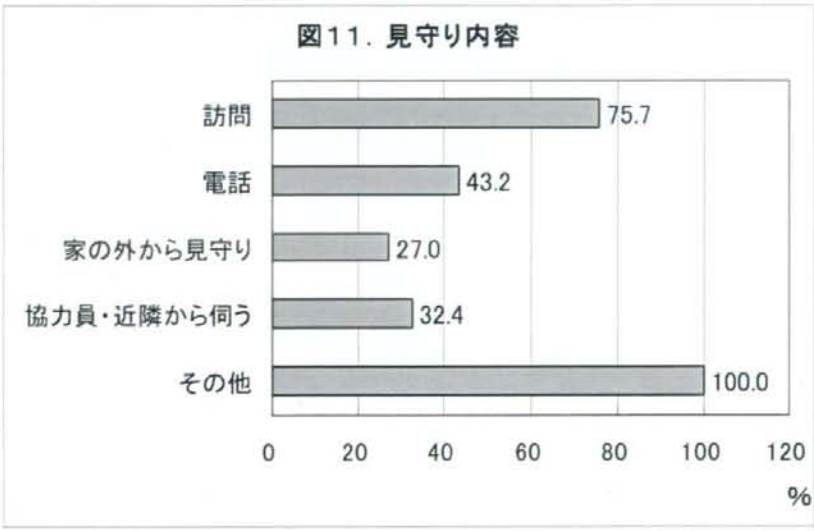


③内容

見守りの内容別にみると（表 12、図 11）、自らの訪問のみならず、近隣等と協同で行っている。

表12. 見守り内容(複数回答)

	人数	%
訪問	28	75.7
電話	16	43.2
家の外から見守り	10	27.0
協力員・近隣から伺う	12	32.4
その他	13	100.0



3)見守りしている人数と頻度

①人数

見守りしている人数は、訪問では 11 人～20 人が多かった。訪問以外では 5 人以下が最も多かった（表 13)。

表13. 見守り内容別にみた見守りしている人数(複数回答)

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外から人数		協力員・近所人数	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
5人以下	5	9.8	7	13.7	8	15.7	7	13.7
6～10人	5	9.8	3	5.9			2	3.9
11～15人	8	15.7	2	3.9			1	2.0
16～20人	7	13.7	4	7.8	2	3.9	1	2.0
21～25人								
26～30人	3	5.9						
31人以上(～45人)							1	2.0
無回答	23	45.1	35	68.6	41	80.4	39	76.5
合計	51	100.0	51	100.0	51	100.0	51	100.0

②頻度

表14. 見守り内容別にみた見守り頻度(1回／日、複数回答)

見守り頻度（1回／日）	訪問日		電話日		家の外から日		協力員・近所日	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
毎日	8	15.7	10	19.6	6	11.8	3	5.9
2～3日	1	2.0			1	2.0	1	2.0
4～7日			1	2.0	1	2.0	1	2.0
8～10日	3	5.9			1	2.0	2	3.9
11～14日	3	5.9	3	5.9			1	2.0
15～30日	12	23.5	2	3.9	1	2.0	4	7.8
約2ヶ月	1	2.0						
約3ヶ月								
約半年								
無回答	23	45.1	35	68.6	41	80.4	39	76.5
合計	51	100.0	51	100.0	51	100.0	51	100.0

その他の具体的な見守り内容は表 15 のとおりである。

表15.　その他の見守り内容

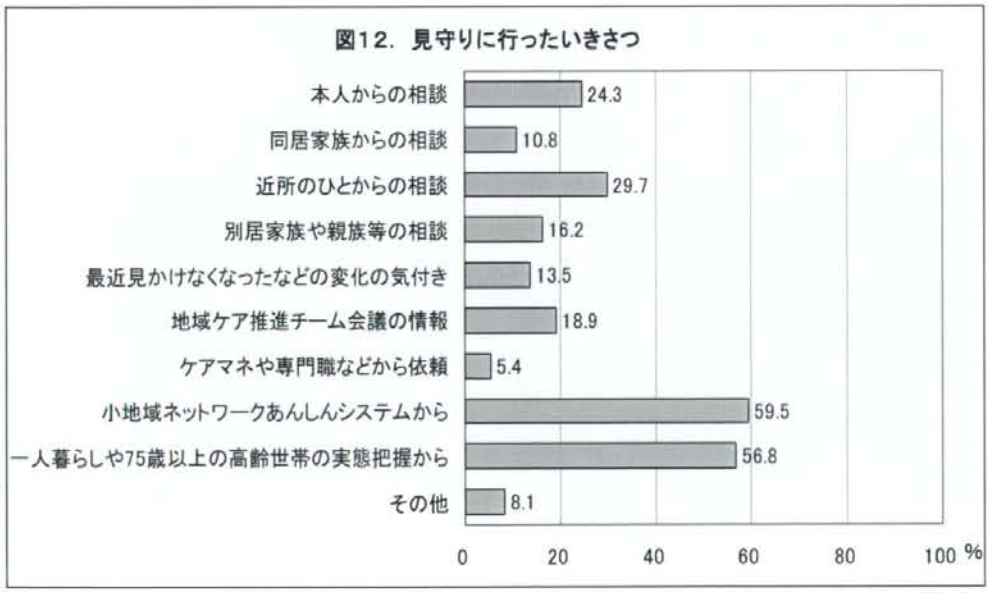
- 「見守りウォッチング管理要綱」に従い週1回の人、週2回の人、月1回が最低です。
- 北校区のウォッチング管理要綱に従って活動
- 近所に住んでいるので声を掛けるが中までは入らない。週2回位は前を通って様子を見る。
- 戸外から郵便受、電燈の明かり等で様子をみている
- 死の広報等を直接持って行き、様子を確認
- 相談や話し相手、立ち話をする
- 外で出会ったときは必ず声掛けするよう心がけている。
- 当校区の「見守りウォッチング管理要綱」に従い、各個人の状況により、週1回または2週間に1回、またはひと月に1回が最低厳守であるが、実態はそれぞれの約1．6倍くらいの見守り回数実績がある。
- 当地域は福祉委員も同じ活動をしている。当地域の「見守りウォッチング管理要綱」に基づき、各個人の状態に応じて見守りを続けている。
- 配布物や新聞等で連携を図っている
- ほとんどが近くの人なので、道で会うことが多く、その際に安否確認ができる。
- 用件のある場合は複数訪問

(4)見守りにいたったいきさつ

見守りに行ったいきさつ別にみると（表16、図12）、「小地域ネットワークあんしんシステムから」が22人（59.5%）、「一人暮らしや75歳以上の高齢者世帯の実態把握から」が21人（56.8%）と多くみられた。

表16.見守りに行ったいきさつ（複数回答）

項目	人数	%
本人からの相談	9	24.3
同居家族からの相談	4	10.8
近所のひとからの相談	11	29.7
別居家族や親族等の相談	6	16.2
最近見かけなくなったなどの変化の気付き	5	13.5
地域ケア推進チーム会議の情報	7	18.9
ケアマネや専門職などから依頼	2	5.4
小地域ネットワークあんしんシステムから	22	59.5
一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から	21	56.8
その他	3	8.1

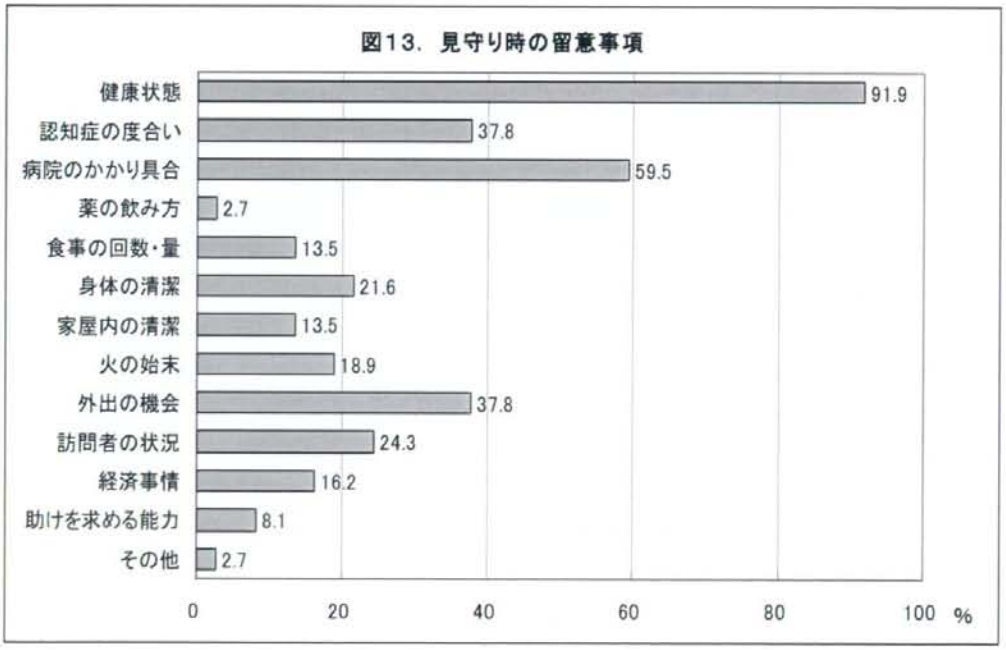


(5)見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると（表 17、図 13）、「健康状態」が 34 人（91.9%）と高いが、多岐にわたり留意されている。

表17.見守りの際の留意事項(複数回答)

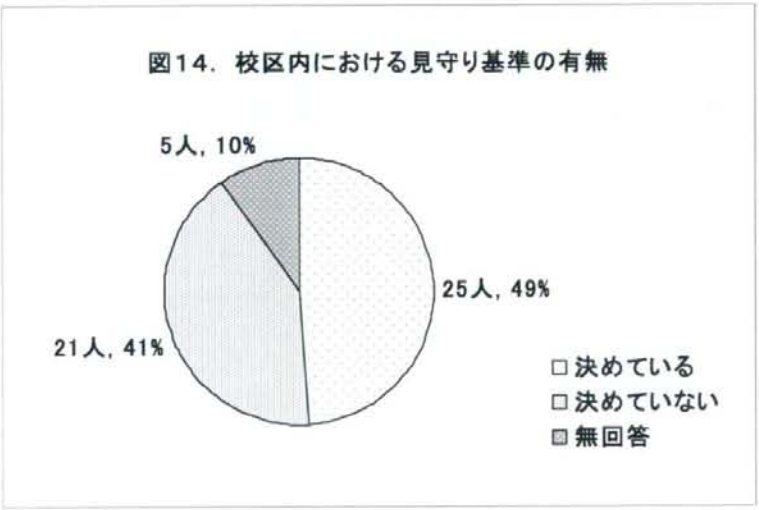
項目	人数	%
健康状態	34	91.9
認知症の度合い	14	37.8
病院のかかり具合	22	59.5
薬の飲み方	1	2.7
食事の回数・量	5	13.5
身体の清潔	8	21.6
家屋内の清潔	5	13.5
火の始末	7	18.9
外出の機会	14	37.8
訪問者の状況	9	24.3
経済事情	6	16.2
助けを求める能力	3	8.1
その他	1	2.7



(6)校区での見守り基準の有無とその内容

①有無

校区内での見守り基準の有無をみると（図 14)、「決めている」が 25 人（49%)、「決めていない」が 21 人(41%)、「無回答」が 5 人（10%）であった。

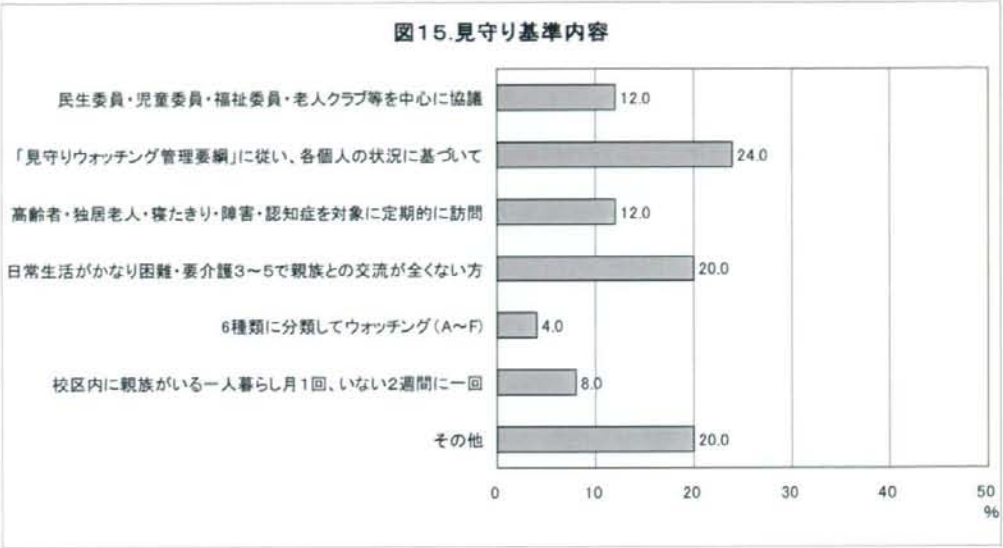


②内容

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えたもので、その具体的な内容は表 18、図 15 のとおりである。

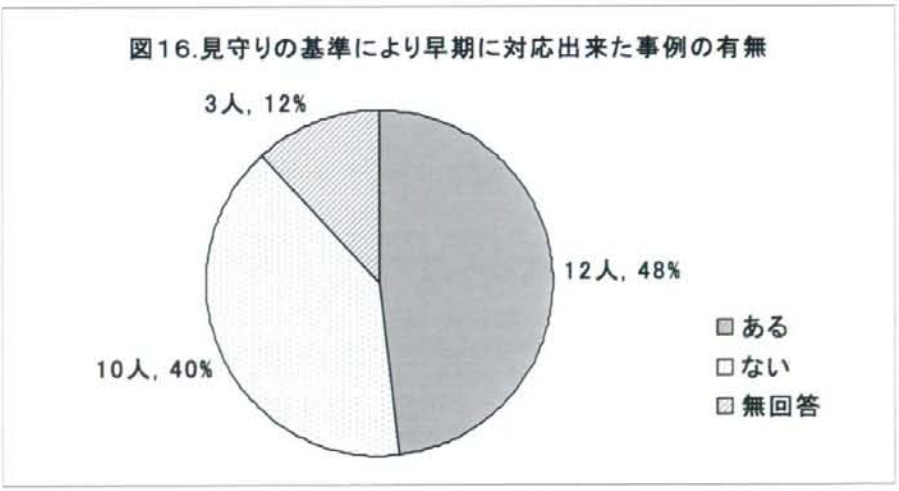
表18.校区内での見守りの具体的な基準

項目	人数	%
民生委員・児童委員・福祉委員・老人クラブ等を中心に協議	3	12.0
「見守りウォッチング管理要綱」に従い、各個人の状況に基づいて	6	24.0
高齢者・独居老人・寝たきり・障害・認知症を対象に定期的に訪問	3	12.0
日常生活がかなり困難・要介護3～5で親族との交流が全くない方	5	20.0
6種類に分類してウォッチング(A～F)	1	4.0
校区内に親族がいる一人暮らし月1回、いない2週間に一回	2	8.0
その他	5	20.0
合計	25	100



③早期に対応できた事例の有無

校区内における見守りの基準の有無で「決めている」と答えたもので、見守りの基準により早期に対応出来た事例の有無をみると（図 16）、「ある」が 12 人（48%）、「ない」が 10 人（40%）、「無回答」が 3 人（12%）であった。



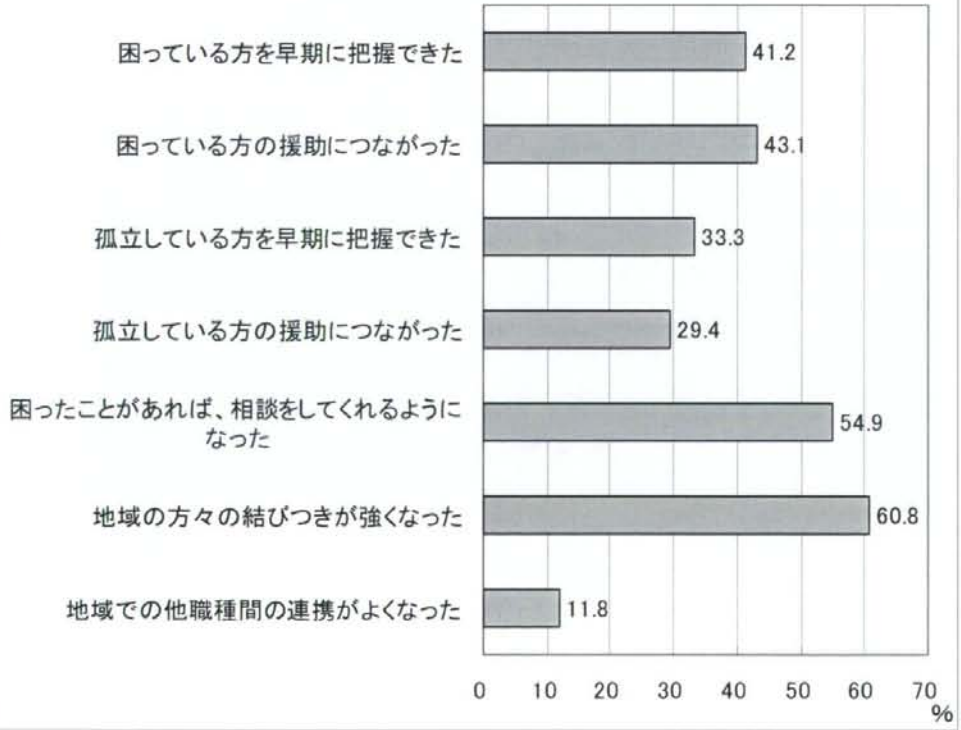
(7) 見守りの効果

見守りの効果を項目別にみると（表 19、図 17）、見守りが次の援助につながったり、早期把握、地域の結びつき・連携に影響していると回答されている。

表19. 見守りの効果について（複数回答）

内容	人数	%
困っている方を早期に把握できた	21	41.2
困っている方の援助につながった	22	43.1
孤立している方を早期に把握できた	17	33.3
孤立している方の援助につながった	15	29.4
困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった	28	54.9
地域の方々の結びつきが強くなった	31	60.8
地域での他職種間の連携がよくなった	6	11.8

図17. 見守りの効果について



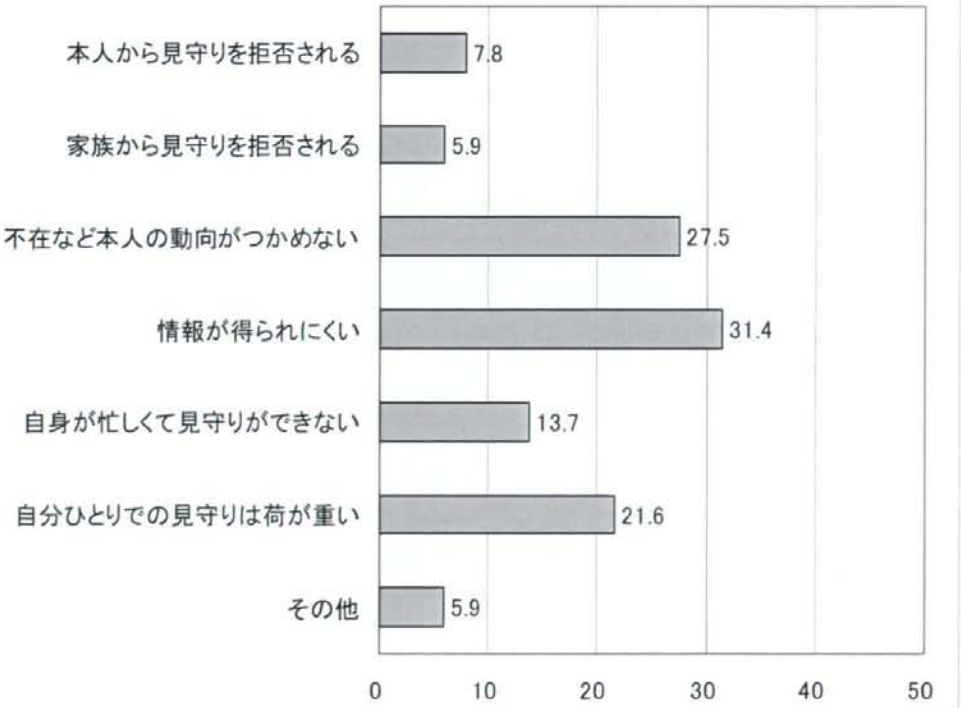
(8) 見守りの困難な点

見守りの困難な点は、情報が得られにくい、不在など本人の動向がつかめない、という見守り対象の状況がわからないという点と、自分ひとりでの見守りは荷が重いという点、本人や家族から見守りを拒否される点があげられた（表 20、図 18）。

表20. 見守りをする上で困難に思う点（複数回答）

内容	人数	%
本人から見守りを拒否される	4	7.8
家族から見守りを拒否される	3	5.9
不在など本人の動向がつかめない	14	27.5
情報が得られにくい	16	31.4
自身が忙しくて見守りができない	7	13.7
自分ひとりでの見守りは荷が重い	11	21.6
その他	3	5.9

図18. 見守りをする上で困難に思う点



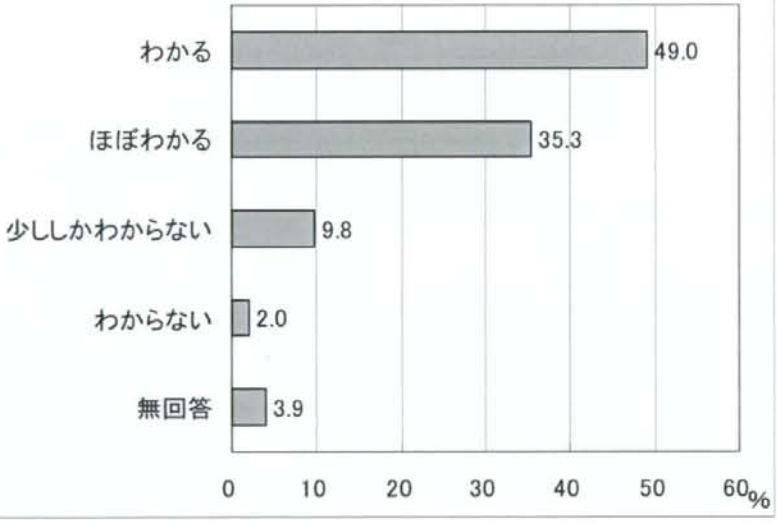
(9)担当地区の高齢者の人数の把握の有無

担当地区に住んでいる高齢者の人数把握についてみると（表 20-2、図 19)、「わかる」が 25 人(49.0%)、「ほぼわかる」が 18 人(35.3%)で、この二項目で 9 割弱を占めている。

表 20-2　担当地域に住んでいる高齢者人数を把握しているか

	人数	%
わかる	25	49.0
ほぼわかる	18	35.3
少ししかわからない	5	9.8
わからない	1	2.0
無回答	2	3.9
合計	51	100

図19. 担当地域の高齢者人数把握状況



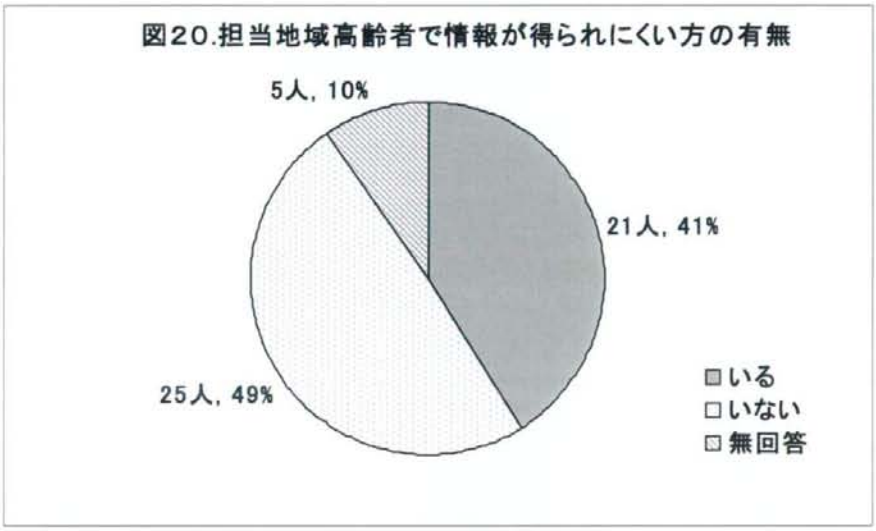
また表 20-3 をみると、担当地域に住んでいる高齢者人数の把握状況は、校区により違いがみられる。

表 20-3　校区別にみた担当地域に住んでいる高齢者人数の把握状況

		無回答	わかる	ほぼわかる	少ししかわからない	わからない	合計
A	人数	2	14	4		1	21
	所属校区別の%	9.5	66.7	19.0		4.8	100.0
	回答項目別の%	100.0	56.0	22.2		100.0	41.2
B	人数		4	1	2		7
	所属校区別の%		57.1	14.3	28.6		100.0
	回答項目別の%		16.0	5.6	40.0		13.7
C	人数		2	9	2		13
	所属校区別の%		15.4	69.2	15.4		100.0
	回答項目別の%		8.0	50.0	40.0		25.5
D	人数		5	4	1		10
	所属校区別の%		50.0	40.0	10.0		100.0
	回答項目別の%		20.0	22.2	20.0		19.6
合計	人数	2	25	18	5	1	51
	所属校区別の%	3.9	49.0	35.3	9.8	2.0	100.0
	回答項目別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

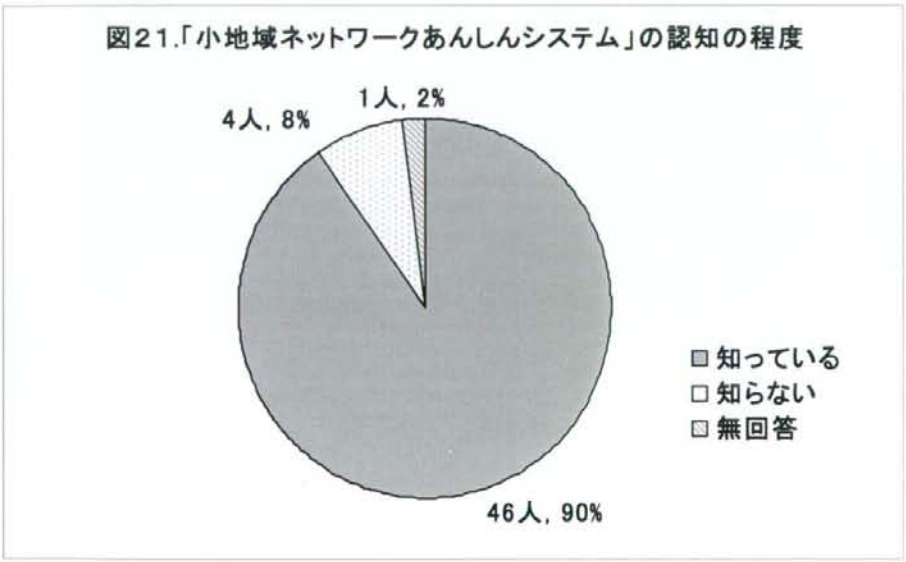
(10)担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無

担当地区の高齢者で情報が得られにくい方の有無をみると（図20)、「いる」と答えたものが21人（41%)、「いない」と答えたものが25人（49%)、「無回答」が5人（10%）で、半数近くがいると回答していた。



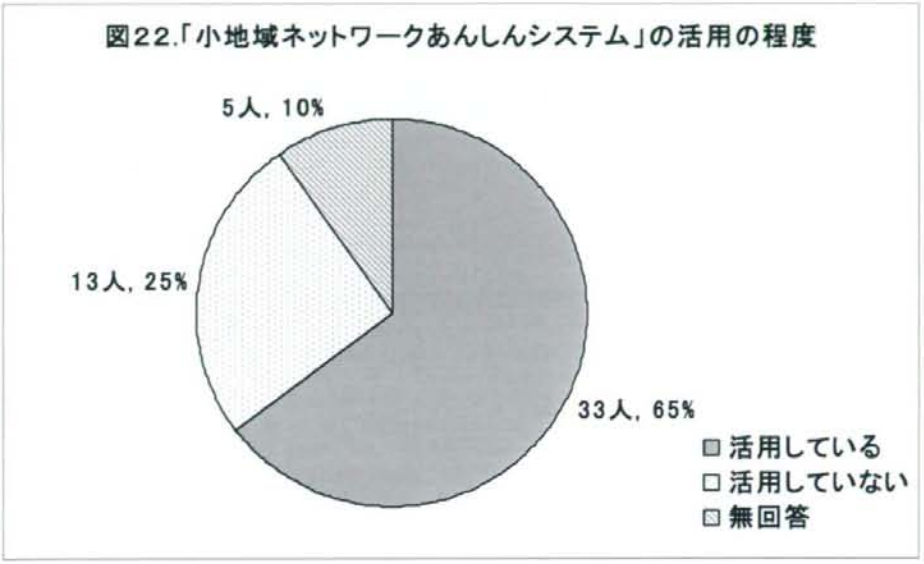
(11)小地域ネットワーク　あんしんシステム」の認知の程度

「小地域ネットワーク　あんしんシステム」の認知の程度は、約90%が知っていると回答していた。



(12)小地域ネットワーク　あんしんシステム」の活用の程度

「小地域ネットワーク　あんしんシステム」の活用の程度は、約70%が活用していると回答していた。



(13) 見守り活動についての意見

表21-1. 見守り活動についての意見

● 現在行っていること、見守りの良い点、

- 見守り対象者とのコミュニケーションを図るため訪問対話を積極的に推進していきたい。現在の所、コミュニケーションが図られていると思う。
- 一人暮らし、75歳以上の夫婦の方は協力的で元気な方多く、散歩等よく見られ喜んでいる。差し障りの内容見守りしている。
- 日頃の色々な方との会話で、意識的に近所の方々の状況を話したりしており、ほぼ状況が把握できる。積極的に見守っている訳ではなく、自然体にしている。
- 6年間訪問していて、高齢者の方が喜んでくれるので、自分も楽しみに訪問している。
- 地域コミュニティーの活性化に役に立っている。
- 見守り担当は大変でしょうがいつまでも続けて貰いたい。対象者からすれば少なからず心強く感じている筈。

表21-2. （つづき）見守り活動についての意見

● **見守りで難点に思うこと、協力体制について**

・民生委員さんに一任ではなく、隣近所の方々の見守りは大切

・我々の見守り活動には限度がある。ITを利用した見守りを行政が推進するべきだと考える。

・福祉委員1人の力では限度を感じる

・福祉委員（民生含む）のみでは見守りには限界がある。中には伺うことに気を遣われる方もいる。しかし、当校区では見守り管理要綱を作っているので、行い易い面はある。

・長期間見守り活動を続けているが幸いな事にいままでどうしようもなく困った事例に出会ったことはない。今までも今後も日常生活が困難な方が出来た場合、今の自分の立場でどこまで活動できるのか、いつも不安に思いながら活動している。

・地域の役員さんを頼るのも勿論だが、隣近所等小さい範囲の付き合いを通じて行うのが肝心である

・孤立死防止は近所から

・核家族、高齢化により独居高齢者が増加している。地域の仲間、隣人として温かく見守っている活動がとても有意義な活動である。

表21-3. （つづき）見守り活動についての意見

● あんしんシステムについて

・地域福祉の足でかせぐ見守り（ソフト）システムと行政の現有中の古いセーフティ機器（緊急通報電話）を廃して最新のITを駆使したコンパクト機器で、携帯＆防水機能付きの開発（ハード）により、両輪で安心と安全を推進すべきが急務と考える。

・あんしんシステム、レスキューリスト、緊急通報電話等あるが何れも十分ではない。特に緊急通報電話は以前より利用率は低いように思う。

● 個人情報保護の問題について

・プライバシーの問題なのでどこまで入り込んでいいものか難しい。

・町会との連携において毎年町会長が代わるため情報収集等がスムースに進まない点あり（引っ越し等での変化）また、問題の無いときはうるさがられる。（聞き取り、個人情報が漏れる点）信頼関係が出来上がらないと不可。

・町会長として町会全体を把握しつつ高齢者（特に独居）の見守りを遠くからするだけである。「個人情報」の保護の立場から家族の方からも多くを語って貰えないケースが多い。

・情報を開示して広く見守りの活動を出来るようになれば良い。

● その他

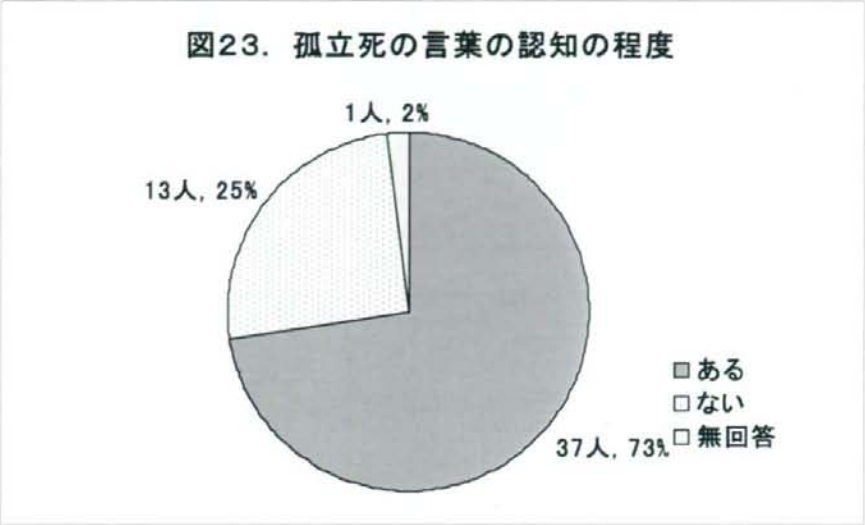
・月・水・金のヤクルト配達が復活すればいいのだが。検討してほしい。

・見守りだけでなく、屋外へ出る機械・交流の場を多くする

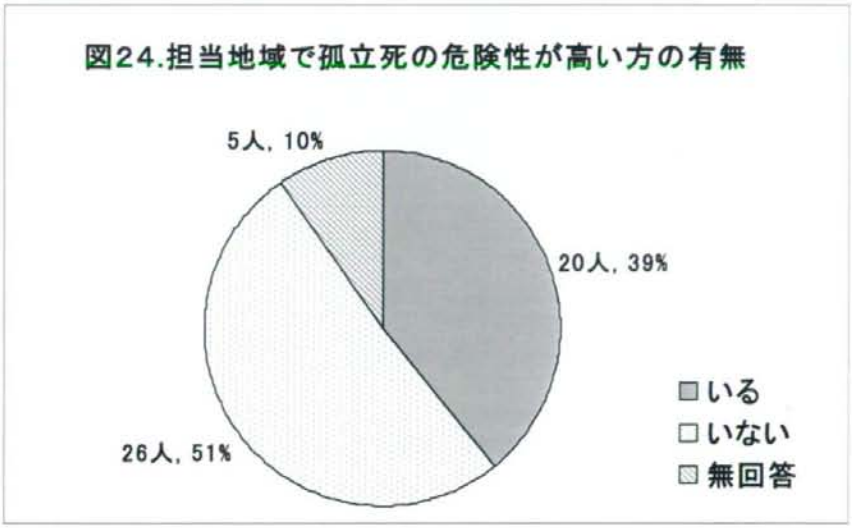
4)孤立死の状況

(1)孤立死の言葉の認知の程度

「孤立死という言葉を聞いたことがあるか」という問いに対し、「ある」と答えたものは 37 人（73%）であった。(図 23)



(2)担当地区で孤立死の危険性が高いと考えられる方の有無

①有無

「担当地域に孤立死する危険性が高いと考えられる方はいるか」という問いに対し、「いる」と答えたものは 20 人（39%）で「いない」と答えたものは 26 人（51%）、「無回答」は 5 人（10%）であり(図 24)、4 割弱が危険性の高い人がいると回答している。